

令和5年度 第4回中央市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和5年11月17日(金) 午後1時30分～

場 所：中央市役所本館 2階 防災対策室1

出席者：14名（欠席者：4名）

赤岡会長 橘田委員 池田委員 菊島委員 本住委員
森委員(代理：河合氏) 河西委員 森下委員 渡辺委員(代理：村松氏)
加藤委員(代理：若月氏) 矢島委員 齊藤委員 藤田委員 加藤委員
(事務局：山本課長・青木L・渡辺)

会議概要

1 開 会

2 議 題

(1) 中央市地域公共交通計画

①計画の骨子(案)について【資料】に基づき、章立て、構成等を説明。

※内容精査中につき、未記載の部分や整合性の確認を要する箇所がある旨を補足。

○質 疑

な し

②施策・事業(案)について【資料】に基づき、前回(書面協議会)からの変更点を中心に説明。

○質 疑

委員A

意：施策体系図は色のメリハリがなく見づらい。

答：修正する。

問：事業2-2「デマンド交通の導入促進」について、参考事例に甲斐市の取り組みについて記載があるが、表現がおかしい部分がある。

答：誤記載であるため修正する。記述内容については全体を改めて確認する。

その他意見・異議等なし 施策・事業(案)について承認

③評価指標（案）と進行管理手法（案）について【資料】に基づき説明

※計画目標「みんなで支える公共交通サービス」、評価指標「交通事業者以外による移動サービス数」における評価指標設定の考え方・算出方法の欄、及び計画目標「環境に配慮した公共交通の実現」、評価指標「環境配慮型車両の導入台数の目標値設定の考え方」の欄は記載内容に誤りがある旨を補足。

○質 疑

委員B

問：P73 計画目標「交通弱者の生活を支える公共交通サービスの確保」、評価指標「高齢者における公共交通サービスの利用率」について、現状値 3.6%、目標値 5.0%としているが、対象となる高齢者数が増加していく場合、利用者数に換算すると設定値が高いと思われる。

仮に高齢者が 1,000 人の場合、利用率の現状値が 3.6%では利用者数としては 36 人であるが、推計どおり令和 10 年に高齢者が 1.4 倍増加し 1,400 人になった場合、利用率の目標値 5.0%では利用者数としては 70 人となり、数で比較すると倍になる。

一方で、計画目標「地域内公共交通における利便性の向上」では評価指標として「市が主体となり運行する交通サービスの 1 日当たりの利用者数」としているが、利用率と利用者数で設定を使い分ける特別な意図があるのか。

答：利用率と利用者数については整合性を図る必要があるため再度精査する。

委員C

意：施策・事業の展開としてデマンド交通の導入促進が示されているが、他事例ではデマンド交通の導入のみでは利用者が増えない現状もある。利用者数の増加を目標とするのであれば利用促進の取組み等についても活動指標として設定してはいかかがか。

答：検討する。

委員D

意：計画目標「交通弱者の生活を支える公共交通サービス」、「地域内公共交通における利便性の向上」における目標値設定の考え方について、高齢者人口の増加の増加だけでなく、デマンド交通等によるサービスの向上にともない見込まれる市民全体の利用増加分を根拠で示し、分かりやすい目標値を設定してはどうか。

答：高齢者以外の要因も含めた利用者数を推計し、目標値設定の考え方を精査する。

委員E

質：現状値についてはいつ時点のものか。

令和3年度数値と推測するが、令和4年度数値はあるのか。

答：資料に示した数値は令和3年度時点のものであり、可能な限り最新数値への置き換えを予定している。また、時点の表記を追記する。

委員F

意：P74 計画目標「みんなで支える公共交通サービスの構築」、評価指標「利用者1人あたりの市負担額（鉄道・路線バスを除く）」の現状値について、運行経費から運賃収入、国庫補助金額を差し引いて利用者1人あたりの市負担額を算出しているが、国庫補助金額の増減が評価算定に大きな影響を与えることから見直しが必要と考える。

答：外的変動要因である国庫補助金は除外し、運行経費と利用者数（運賃収入）をベースに指標を再度設定させていただく。

事務局

評価指標、進行管理手法については、本日の意見を反映しまとめさせていただく。

3 その他

事務局

第5回協議会を令和5年12月22日（金）午前中に開催予定。

4 閉 会